

## 長野県上田高等学校 関東同窓会第39回総会



# 母校にパソコンを贈ろう

## 第39回総会

## 2百万円目標に募金開始

### 名簿発刊も計画

関東同窓会第39回総会は7月1日、東京・一ツ橋の如水会館で母校の猪熊啓司新校長ら来賓を含め224人が参加して開かれました。総会は母校100周年を記念して、関東同窓会独自の事業として「母校にパソコンセット20台を贈るため、200万円を目標に募金を始める」ことなど活動計画を承認。懇親会にはインターネットでの参加呼びかけに「応え若い会員も参加、IT・ネットワーク時代を実感させられました。」

12年度の活動計画は、「パソコン募金」のほか、21世紀に向け10年ぶりの会員名簿更新、ホームページの充実、会費納入者数の増強への取り組みなど。特に母校へのパソコンの寄贈は、いまだに古い機器を使い校内ネットワークもできていない実情とあって、学校当局も熱望しているものです。

幹事会では、下の別表のように卒業期ごとの募金目標を決め、当面3月末までをめどに募金活動を進めることにしており、会員の皆さんのご協力をぜひお願いします。

また、会員名簿の更新は、1990年に発行した名簿を改訂し、時代に即してeメールアドレスを載せることを考えています。来年夏の発刊を目標に編集を進めることにしています。

母校100周年の記念事業は、10月7日の記念式典、30日のN響メンバーによるコンサートなどのイベント、同窓会館の改築など本部が中心になって順調に展開されました。関東同窓会は丸山会長が「科学と技術」をテーマに式典で基調講演するなど本部に協力しています。(Eメールで寄せられた感想を下に掲載しました。)

### 【別表】卒業期ごとの募金目標額

寄付額は一口5,000円としますが、それ以下でも可とします。

- ①49期まで =各期 3万円
- ②50期～64期=各期10万円
- ③65期～75期=各期 5万円
- ④76期～85期=各期 3万円
- ⑤86期以降 =目標設定せず



### sitei 再会

ルーツを見た思い  
 関東同窓会に出席して  
 恐る恐る出席したのですが、諸先輩方にも大変よくしていただき、安心して楽しい時間を過ごすことができました。

大学に入学してから早16年へらいたっており、すっかり東京の生活に埋没している日々です。卒業生とお話する機会は全くないというほどありませんでした。今回出席し、自分のルーツを見たような気がし、自分らしい道を出して、取り戻したような気がしました。貴重な体験をさせていただけました。校歌斉唱も涙が出そうでした。来年またお会い出来ませうように。  
 常盤順子(82期)



# 百周年記念事業完遂

## 丸山会長は記念講演



理研（理化学研究所）フロンティア研究システム長でもある丸山瑛一会長（51期）は百周年記念式典において、「科学技術と21世紀の日本」と題して要旨次のように講演した。

今から500年あまり前、イベリア半島から始まった大航海時代は西欧キリスト教世界の拡大とともに、近代科学の発展のきっかけとなった。それ以来次々に生まれた古典力学、電磁気学、量子力学などの新しい学問は、建築・運輸、交通・通信、エレクトロニクスなど新しい産業の基礎となり、人類に繁栄をもたらしたが、その一方でエネルギー・資源の浪費や地球汚染などの問題を引き起こしている。これは「拡大と征服」の世界観の帰結と言つてよいだろう。

ところで、20世紀後半に生まれた情報科学と分子生物学は、これまでと全く異なる視点を科学技術にもたらした。それは、情報や生物の多様性が、ものの「配列」という、エネルギーや資源とは別の要素に基づいている、ということである。いわば「無から有を作る」と言つてもよい。

生物はみな材料を地球から借りて花を咲かせ、社会や文化を作り、そして死ぬと材料を地球に返す。このことは、般若心経の「色即是空」の世界観と奇妙に一致している。「色」とは多様な文化であるが、その根本は「配列」という実体のないもの、つまり「空」である。

これは日本人が古来育んできた自然観であり、この「共生と循環」の思想は21世紀日本が世界に発信していかななくてはならない最重要思想であると思う。

母校から、講演を聞いた生徒の感想が寄せられました。

●記念講演をきいて  
3年9組 草間 博文

僕は、百周年記念講演での丸山瑛一氏のお話の内容の幅広さに驚きました。

「科学技術と21世紀の日本」と題されていましたが、単に自然科学で現在の日本の問題を語るのではなく、世界の歴史、科学、宗教と様々な切り口から語られたものでした。特に宗教の「色即是空」についてはあれだけでは理解することはできませんでしたが、科学が無から有を創ることのこれからの可能性と重要性がひしひしと伝わってきました。

百周年という節目を迎えて、先生の言われていたように、将来の若い世代に適切な助言のできるよう、僕たちは現在と未来をしっかりと見定めていく必要があると感じました。

### 同窓会館改装

新たに談話室が設けられた。生徒に人気の学習室は、冷暖房完備。大晦日も元日も利用者があるといふ。



### 記念ゴルフ大会

百周年記念ゴルフ大会は10月6日、中軽井沢カントリークラブで180人が参加して行われた。晴天に恵まれ、同クラブ始まって以来の1コンペで3人のホールインワンも飛び出した。

関東からは約60人が参加、最高成績は54期小市則夫さんが2位（ネット96ヤ）。ベストグロは53期懸川文夫さんの73、ホールインワンは58期塚田恒雄さん、59期稲葉茂さんが達成した。

- ▼50位までの関東からの参加者は次の通り（カッコ内は順位）
- 小市則夫（2） 馬場武彦（4）
  - 横沢武久（9） 中村勉（13） 清水正幸（14） 神津勝重（18） 渡辺孝幸（20） 関根克郎（21） 懸川文夫（23） 堀内福（29） 倉見英一（31） 小林勇（35） 竹内節（38） 山本大吉郎（44） 塚田忠夫（45） 小山修（46）

### 川村吾蔵彫塑展

川村吾蔵（2期）は、国内よりむしろアメリカで有名な彫塑家である。日本では、猪苗代湖の野口英世記念館にもある。



母校100周年を記念して以下のような事業、イベントが行われた。

- 同窓会館改装（7/15竣工）
- 上田高校百年史\*発行（9月末）
- 同窓会員名簿\*発行（9月末）
- 記念CD\*発売（9月末）
- 川村吾蔵彫塑展（10/5～22）
- 記念式典・祝賀会（10/7）
- N響メンバーコンサート（10/30）
- 永六輔氏（50期）記念講演会（11/7）

上記の\*のものは、現在販売中です。この他に、信越放送の「百周年記念特別番組」のビデオも販売中です。詳しいこととお申し込みは本部同窓会へ。  
☎&FAX 0268-22-3146

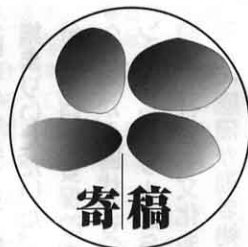
母校のOB文庫に下記の  
本を寄贈頂  
きました。



- ▼小山堯氏 (52期) 「日本にトニー・ブレアはいるか」(廣済堂出版)
- ▼秋山弘志氏 (55期) 「エンタテインメント・ビジネス」(新潮社)
- ▼栗原裕氏 (58期、筆名中丸明) スペイン関係などの著作5冊
- ▼荒井裕司氏 (64期) 「ひきこもり・不登校からの自立」(マガジンハウス)

この村はダートモア台地を源とするダート川の河口、ダートマスに近く、英国では珍しい起伏にとんだ美しい村です。ちょうど夏祭りのさなか、ふだん私たちを大事にしてくれている村人たちが、彼女を大歓迎してくれました。私も会員になっている村の美術クラブの展覧会も開催中。最近水彩を始めた彼女には勉強になり、早速上質のイギリスの絵の具を買って、どこでも絵になる村のあちこちで写生して一挙に腕をあげました。

ベランダ越しに満点の星が輝く夜空を見ながら、私のホヤホヤの近著「日本にトニー・ブレアはいるか」(廣済堂出版)から校正漏れも見つけてくれました。妻と一緒にロンドンに向かった旧友を停車場で見送り、再び静寂に戻ったこの村で、次の執筆にかかっています。



52期 小山 堯  
デヴォンの  
村に旧友を  
迎える

古城の門を出て早46年。あの「青雲の志」を抱いて「土手烏(ガラス)」をしていた遠い日々を思い出します。というのも、ここ十年来過ごしている英国南西部デヴォンの小さな村に、なんと52期の級友、奥紀子が私たち夫婦を訪ねてきてくれたのです。彼女は神戸女学院ほかで臨床心理学を教えているユング派の学者。



田原 敬氏 (48期)  
より  
土屋 学氏 (31期)  
へリレー

【ゴルフと私】64才の時糖尿病と診断され、薬、食事、運動の3つの治療法によって糖尿病と交際あって行くよう勧告された。運動はジョギングを中学3年から毎朝4時起床で50年続けて来たので申し出たら、強すぎるからと不可。ウォーキングを奨められ、朝10キロ、夕方10キロを励行していたら、更にゴルフを勧奨されたので、やむを得ず65才からゴルファーの仲間入りをした。

野球と異なり不動のボールを打つ、こんな楽なプレーはないと、高をくくってボールに対すると、なかなか思うように飛ばない。人並みにプレーできないと仲間にして貰えない。そこで前記4時起床

のウォーキングの時間を1時間割いて、家の前の道路にマットを置いて毎朝素振りの練習を続けました。

私の人生はあらゆる面で運に恵まれ、ゴルフも日本一のレッスンプロ小松原三夫先生に愛され、先生主催の同好会(会員750名)の理事長就任を要請され、カントリークラブの会員になれば3年、67才でハウス委員に推薦され、テレビ出演3回、電車の吊りポスター、駅ポスター、新聞チラシにクラブを振り上げたポーズを写真入りで掲載され、最も豪華版は民放テレビ放映のため2週間小松原プロ、大古清プロ、志保野アナウンサーとオーストラリアへ行き、9日間カントリーで

撮影したことで、私の人生の中で最も楽しく幸福な忘れえない催事があります。

優勝してハワイ3回、台湾3回、北海道5回、九州3回、沖縄3回と、5日~7日の無銭旅行もさせてもらった。ホールインワン2回。

89才になる23年間ゴルフ人生は、よき人々に厚く暖かな交際を頂き、老境に入っても尚更にプレーが出来ることの有り難さ。ギネスブックに載った97才の内田牧三氏のように90才を過ぎても頑張りたいと願っておりますが、閻魔大王が許してくれるか?

私の人生90年の後半30年間はゴルフと囲碁とウォーキングに毎日追われ苦を忘れ楽しい日々を送ることが出来、感謝満杯であります。糖尿病に罹ったのでゴルフを余儀なくし、後半の人生をゴルフによって意義あるものにしてくれ糖尿病様々です。罹病から30年弱、上手に交際あえば永く生きられることを識りました。

## 祝! 会報64号

64期(昭和41年卒業生)

4組は毎年1月に在京の同級会をやっております。次回は1月19日。同期生の皆さんもご参加ください。

幹事 直井隆徳(naoi219@oki.co.jp)  
島田進、竹内中和、石井則男

## 手塚歯科医院

練馬区小竹町1-43-17

☎3974-2320

院長 手塚通夫

## 押上クリニック

墨田区押上3-2-5

☎ 3619-6396  
Fax 3619-2011

院長 松高賢一

# 特別企画 座談会と寄稿による 母校・証言の百年



## 連載第3回 上田松尾から上田高へ

今回は、57期(昭和34年卒)から68期(昭和45年卒)までの12年間の皆さんにお集まりいただいた。世の中は、国論を二分した日米安保改定から高度経済成長へと向かう時代、文化的にはパット・ブーンやプレスリーからビートルズへとという時代、社会も文化も、戦後的なものから現代へ底流が動き始めた時代である。

### 上田高校スタート

宮島(55)では宮坂さんからお話をください。入学されたのはまだ松尾時代ですね。宮坂(57)はい。松尾合格の通知を聞いたのは夜の10時か12時か、信越放送のラジオでした。終戦の玉音放送を聞いたあのラジオで、なかなか入らなかつた。私の名前を聞いた時は「これで入れるんだなあ」と非

### 出席

- 宮坂幸雄(57期) 新潟大卒・(株)プライムシステムズ  
寺島(伊藤)千恵子(58期) 東京大卒  
松井(保屋野)由美(62期) 明治学院大卒  
山崎一郎(64期) 早稲田大卒・(株)富士ゼロックス総合教育研究所
- 上原昇(65期) 早稲田大卒・エースパーカリー(株)  
高橋芳武(65期) 早稲田大卒・(株)バリアフリー  
司会 幹事長宮島光男(55期) 共同通信OB  
編集長井上剛(61期) (財)日本モンテッソーリ教育総合研究所

常に感激しました。

入って一番の思い出はあの古い講堂でやった応援練習。今思うと楽しかった。あの頃はスポーツが盛んで、バレー、サッカー、ハンド、器械体操、みな強かった。自分はクラブに入らなかつたけどそういうことがみな誇りだった。特に野球が甲子園に行ったのと、東大入学者がたしか全国で18位か19位に入ったのが自慢(東大合格者が20人を越えたのが昭和33年)。あのゴツゴツした床の感じと応援団長は強烈でしたね。事実強かつたから、会場で唱うのがどんなに楽しかつたか。

堀内修さん(57)の証言 昭和31年の甲子園はベスト8に残ったので、秋の国体に出場した。1回戦は10月27日優勝候補の早実と対戦。6回、7回に10安打、12四球を奪い9対4で快勝した。佐藤が4安打の大活躍。王投手は出場できずにベンチの後方で終始応援してました。我々はなぜ出場できないのか理由がわかりませんでした。(国籍の關係で出場できなかった) 2回戦は翌日法政二高と対戦。法政二高の打線が16安打で圧勝。松尾は4安打。守っては7失策と攻守に精細を欠き完敗した。

寺島(58) 私もその年、キャッチャーの倉島君(後に明大→ヤクルト)が同じクラスで、応援に行けば出席になるので、夏に松本によく行きました。腕についた時計の痕が、冬になっても消えませんでした。応援の練習は暗い講堂に集められて何とも言えない、怖がるというのでない、怖がるうれしさ、うれしい興奮がありました。今考えると、ドキドキするような違和感、そこに入るとそういう仕掛けがあるというの、あれはいい、幸せなことだったと思います。宮島 そのバンカラなところが受けてか、当時映画のロケも多かつたそうですね。倉島俊二(57)さんの記憶では、「花の高校

生燃える黒帯」。青山京二と浅丘ルリ子の共演。浅丘ルリ子の始めの頃の作品だそうですね。あの校門のあたりが、絶好のロケーションだったんですね。

宮坂 倉島君は、三場面出ています。それで、この間百周年の同期会で話が出たんだけど、「ぜひフィルムが欲しい」と。ところが、日活で買うと百万もするんです。ぜひ観たいものだがな」と残念がりました。信毎に行つた小堺君なんか、一日中観ていたんだって。ほんのちよつと出ているだけだけだね。

←「週刊上田」より転載 深町稔(58)氏発行

### 100年を彩るPHOTO集

上田市周辺でロケが行われた映画は多く、戦前から今日まで40数本の作品がつくれ、うち6本に上田高校や同校生が登場しています。

写真は、上田松尾高校映画班がエキストラ出演して49年に撮られた「人生選手」(新東宝・田中重雄監督)での記念スナップ。同校正門(内側)と



1949年(昭和24)、映画「人生選手」に上田松尾高映画班出演。小林桂樹・月丘千秋・堀雄二とともに。

高橋 (65) ロケは僕等の頃も来ましたよ。運動部の連中が駆り出されて、走ったりして撮影しました。



宮坂 パンカラといえば、私は新潟大の工学部を受けたんですが、上田から11人ぐらいで岡の旅館に泊まったんです。そうしたら先輩が3人ぐらいやって来て、酒

飲ませるんです。「長岡という所は雪国で寒い。我々は金ないから、酒一合飲んで百メートル走ればそれでドタツと寝ちゃうんだよ」なんて。明日試験だというのに、帰ってくれないんです。「これが上田の伝統だ。こういうのをくぐりぬけてこそ」なんて。それで11人みな落ちちゃいました。(笑い) 2年目は一人で泊まりました。(笑い)

宮島 さて、昭和33年に上田松尾高校から上田高校に変わったのですが、その頃の様子を倉島俊二さんから聞いています。

倉島俊二さんの証言 高校2年の後期で3年生はもう受験で学校にあまり姿を見せなくなっていた頃です。学校の名前を変える件を生徒会で議論してほしいということが学校から来たのだと思う。クラスでも議論して、たまたまクラス委員に頼まれ生徒会の会議に出たら臨時総会の議長に選ばれました。でもほとんどのクラスで校名変更には賛成で、総会でも会長か書記長が説明しましたが、反対意見もなくあっけなく決まったんです。校長が中沢先生から羽生先生

に変わる、羽生先生は一年前に長野北を長野高校に変えた、というので校名変更の空気がなった。それと新しく出来る高校か当時の小泉重業(現上田東)かが、このまま行くと上田の名前を使ってしまうのではないか、という噂もあった。それで急速に固まったように思う。自分たちはあまり気に

ならなかったんですが、後になって兄(54期倉島彰氏)にだいたい怒られました。「せつまつてけしからん」と。

宮島 寺島さんはこの頃のこと、覚えておられますか。

寺島 はい、生徒会であまり議論がなかったのは、ちよつと物足りなかったかなあという印象です。「私は松尾に入ろうと思っていた。上田に入ろうとしたのではない」という気がありましたので。何故松尾になつたか、というような説明が先輩から大いにあれば少しは心が動かされたかと思いますがそういう雰囲気はなかったですね。

宮坂 ただ私は応援歌で、ラ上田ラ上田というところ、ずっと松尾だったですね。卒業しても何かの集まりの時は松尾ですね。(笑い)

宮島 では、寺島さんが入学した頃の様子を話してください。

寺島 私は女子が入り始めてから7年目です。非常に先進的な方が入られたという噂と女子は松尾に行つても伸びない、松尾に行く女子は変わり者だという意見があり、



母達も周りから反対されました。でも何故行つたのかというと、小さい子から見ると母が非常にかわいそう、経済的な自立を持たない女の人は結局の所かわいそうなんだ、という思いがあつて、「だったら勉強して職業を手に入れる、松尾に行くのが当然」と決めました。ただ、当時染谷はオベラが盛ん。学校が身も心も傾けて指導して、私も中学から観に行きました。先輩が「マッチ売りの少女」の主人公をやつた。それで私は染谷大好きだったので悩みました。当時は学校全体が特徴を持っていて、「その学校で出来ること」というのを心の

中で豊かにふくらませていただいた、という気がしています。

松尾での女子の生活も、先生方にもだんだん受け入れられて、1年先輩の方たちが女子更衣室も作ってもらいました。ところがそれが運動部の部室の一番真ん中にあるんです。すごくいい匂い。(笑)汗の匂いのおぶんする青春の真ただ中の匂いをかいたのも男子校だからその経験でした。

宮島 そう、その更衣室を覗こうとみな必死なんだよ。

高橋 そう。あの節のところをくりくりやっているとスポツとぬけるんですよ。

寺島 女子のいることで影響があつたのは生物の授業。金子先生が「このクラスはここまでしておこう。あとは隣のクラスで聞いておけ」なんておっしゃって男子はプー。(笑い) 私それ聞いて私のクラスの男の子はかわいそうだと思ひ、抗議に行つたんです。でも、先生、女の子と話すの好きじゃなかったみたいで、横向いて話して、私、気の毒だ、申し訳ないと思ひました。

体育などは少人数なので工夫してましたね。ソフトボールは男子と一緒にあれは楽しかったですね。一人よく打ちましてね、母袋さん、二塁打を何本も。

宮島 寺島さんは、AFSで上田で初めて留学されたのですよね。そして留学自体が夢のような時代に国際電話でこちらの高校生と交歓をした。全国紙に大きく載り、アメリカでは「ライフ」に載つたり、アイゼンハワー大統領にまで報告が行つたそうですね。それも話してください。

寺島 私、留学のこと話題にされるのがウーって感じがずっとあつたんですが、最近同期の人達が毎月富国生命の地下で飲んでる会に出るようになって、同世代の人達と、自分たちが何やってきたんだろうと自分が育つてきたところを振り返ると、20年、

30年も会っていない人達が、「あの時はすごかったなあ」「あの時は、寒い所で聞いてたんだよ。俺は、絶対英語使つて商売かなんかやってやるぞと思つたんだよ」とおっしゃって、それで実際、今立派にやつてらつしゃるので、これは自分のプライベートルートなこととして封じ込めることではなくて、前の世代の人達が私を通じてやつて下さったことをこんなことだつたとお話しすべきかなあと考え直すようになりました。

あれは安保改定の年で、ハガティーンさんが羽田で取り囲まれてこちらに來られなかつた、あのような時に私はアメリカに行つていたので。1年間留学をするというのはAFSの制度の6年目で、高橋先生という方が野沢北で一人派遣して上田に來て「ぜひ行きなさい」と。男性も何人か受けられたんですが、男性の方がハードルが高くて女性の方が簡単に受かつたんで、英語班の星野さんなんかすごく悔しがつて怒っていました。

会話の試験もありました。よその人と話したことのない英語ですから想定問題集を作つて「こう言われたらこう答える」と覚えさせました。でも良い勉強になりました。英語班の人達はどつち海外の先生と英会話をやつていたんですが、私はそういうチャンスもなかったのです。

宮島 あれはね、軽井沢の教会にカナダ人の宣教師がいて、週に1回上田高校のすぐ側の教会にバイブルクラスというので來ていたので。それに英語班は出ていた。だからキャンドルサービスなんていうと軽井沢に行つて、初めて女性と並んでキャンドルサービスをしてドキドキしました。そういうことで、軽井沢の教会に勉強に行つたのではないですかね。

寺島 そうして2年の時に試験を受けて、3年の夏休みから行きました。1年間ホー

ムステイです。で、この留学が私だけのことでなかったというのは、ステイ先のお父さんが急に思い立って海の向こうとこちらの高校生同士が電話で交歓をするという企画をベルテレフォンと上院議員とに話してあつという間に実現したので。費用は全部向こう持ちで。1月といえ3年生は受験の前で大変な時期。上田の講堂は板敷きで寒い所に座布団敷いて外套着てうずくまっていたそう。電話で来た音を拡声器で出すというのは当時技術的に大変だつ

たそうですが、先生とか放送班の人達がやってくれたそうです。で、キップリングの「西は西、東は東」という詩がありますが、それをメインテーマにし、読み合つてその詩に対する感想を生徒会の方も英語でちゃんと話しました。はじめ向こうの交換手が「羽生先生、羽生先生(校長)」と呼びかけるんですが、「こちらは高橋です。こちらは高橋です」というのでいつまでも話が始まらない。「羽生先生はおられますが、自分が代理です」とおっしゃらなかったもの

『上田高校百年史』  
58期より



●58期6組伊藤智恵子さんがAFS(アメリカンフィールドサービス)奨学生としてアメリカへ留学、全国的ニュースでした。昭和35年1月8日、留学先のペンシルベニア州、クラークスサミット高校と上田高との間で“国際電話交歓”が行われました。写真上は上田高校、左はクラークスサミット高校での様子です。このもようは時のアイゼンハワー大統領に報告されました。



ですから。それで、5分か10分ぐらいたちました。(笑い)海底ケーブルですがその録音がウーンワンと聞こえています。同級生のお父さんが電気店ですばらしい機材を持ち込んで録音してくださったそうです。そのテープを今改めて聴きますと、当時日米安保に日本を組み込む動きの一つでアメリカ人は熱心に行ったのかなと思う。が、それはこういう時代、日本という国をもっと知りたいという善意からだった。当時私も招かれてスピーチをしに教会などに行つてよくわかったのは、お年寄りが「私の息子は日米戦争で殺されたのよ。でもあなたに罪はないし私はあなたを赦すわ」なんて話すんです。プライベートな高校生が行つてもそういう目に遭いますのでのんきな私もずいぶん考えさせられました。そういう中で電話交歓を行つて高校生が何を考えているか知りたいたい、当時大人の世代が私どもにやってくださったことの質と量と量と考えると、私達は子供達にそれをして来ただろうかという思いはあります。

上原(65) AFSというのは、何の略なんですか。

寺島 American Field Service です。Fieldは戦場。第一次大戦で救護活動した人達が、戦争起こつてからこういうことするのでなく平時に交流を、特に若い人達にそういう経験を、ということから始めたので

宮坂 アメリカに行くのに何で行ったのですか。

寺島 氷川丸で参りました。シアトルまで9日間。全国から来た60人の高校生が、船倉のカイコ棚に暮らして。上層には上等の客がいるんですが、エンジンルームの回りに行けば誰にも迷惑かけずに歌ったりしゃべったりできました。

宮島 9日間というのはちよつどよいコミユニケーションができれば時間だよ。合宿でも、好きも嫌いもわがままも出て、そのわがままも自分で制御しなければならぬという時間もできる。

寺島 「ユアーマイサンシャイン」という歌を何百回と歌ったことか。氷川丸が今横浜港に係留されているのは幸せです。そこで同級会をやりませう。広島市長の秋葉さんなども来ませう。

高橋 その後は行かれた方はいないんですか。

寺島 小山和子さんが行かれました。

青春の光と影



宮島 さて次は松井さん達の世代ですが。松井(62) 私は体が弱かったので、全部男子と一緒にやるといふのがきつかったです。特に体育。私のクラスは全部男子と一緒にやりました。縄跳びも男子とペア組まされて

てやったし、サッカークラブの時はいきり足を蹴り上げられて、失神してしばらく動けなかった。そんな時も「こんな所に来ていられるお前が悪いんだ」と言われ、「悪かった」は一言もなかったです。「もうこんな所に来るものか」と思いました。一年の時、ロッカーに物を入れたら全部持ち出されてバラバラにされて、お弁当は中味なくなっていました。だから私は、教室で弁当食べたのは一回ぐらいであとは更衣室で食べました。それも節穴があいていて向こうから覗くもので、座布団をおいてそれが倒れないように鞆を立てて、その前少し空いた所にお弁当置いて立って食べました。それと寒かったというのが私の高校の思い出。入学して6ヶ月ぐらいで入院して闘病生活もしたし、修学旅行の思い出も真っ黒。

だって私小さいでしょ、「京都っていいところだろうな」って思ってた。何見ても背中しか見えない、みんなワツと行っちゃうから真つ黒なガ克蘭の背中しか見えなかった。お昼に購買でパン売ってるでしょ。あれだって、みんなワツと行くんで、私、とうとう買えなかった。

井上 (61) 松井さんはかわいいそうな高校生だったんですね。

松井 だけどね、この間62期の阿部百合子さんが、「由美ちゃんね、あなたの思い出で私言ったことないかもしれないけど、0君っていう男の子が『あそこにいる女さあ、赤いセーター着てきて、俺、目について目についてしょうがないからあれ着てこないように言ってくれ』て頼まれたんだけど、私はそれを言いきれなくて言えなかったかったんだよね」って言うんです。私は男の子なんて意識していなかったんだけど、そんな話になっていたのかと。(笑い)

## クラブ一色の青春

宮島 山崎さんの世代は、また時代が少し下りますがいかがでしたか。



山崎 (64) 私たちの世代でも甲子園の初出場は非常に印象に残っています。上田駅の前での壮行会とか。ピッチャーの神津さんはひよるひよるとして、一方キャ

ッチャーの倉島さんはでぶつとした印象でした。私は2中で野球やっていたので、上田でも野球班に入るつもりでしたが、5人入って一日で一人だけ残ってみんなやめました。それから5月ごろ体力測定があって「なかなかバネのある奴がいる」という話が陸上の先生に入って「お前陸上やらないか」と。親父が国鉄にいたもので旅行が好きだった。「強くなればインターハイ

で旅行出来ますね」ということで陸上に入りしました。で、110ハードル、200ハードル、110ハイハードル、400ハードルと県の記録を作りました。3年の時はインターハイが別府であつてどうしても行きたかった。ところが、足にひびが入ってしまった。インターハイ予選は福井でやるんだけど、上田の先輩横関先生が福井の日赤センターにいたということで紹介してくれて、タクシーで行って、走る30分前に麻酔を打ってもらって走りました。当時はどうなつてもいいぐらいの気持ちで走りました。(2位で通過)

そんなことで、高校生活はほとんどクラブ一色の生活。市営競技場からハードル持つて帰ってくるんですが、痙攣が起きて歩けなくて、お堀端をはって帰ったこともありました。春休みには合宿。蒲団を自転車に乗せて持つていって教室で寝る。用務員室でメシを作る。寒かったけど良い思い出です。でも、そんなだから数学が出来なかつたので、ポチ(栗本先生)や田中菊さんには「山崎、お前走るのは速いけど計算は遅いなあ」としょっちゅうやられましたね(笑い)。田中菊先生なんか「山崎」と指してから「と言つてもお前は答えられないから。あてないわけにはいかないから、じゃ、あてたぞ」と。「山崎と石沢は陸上だけだからな。石沢お前、弟はだめだな(お兄さんが京大)」なんて。大学は推薦が来ましたが早稲田だけ推薦が来なかつた、それで1浪して行きました。クラスはあつてもクラスの友達とのつきあいはほとんどありませんでしたが、上田高のつながりはその後も続きましたね、嫁さんもNHKに行つた今井君に紹介してもらいました(彼の結婚式では自分の挨拶の前に彼の上司で上田の先輩の西澤祥平アナウンサーの挨拶があつて、いやあすばらしい挨拶で汗をかきました)。体の具合をずっと見て

くれているのも丸子出身で医科歯科大を出た沢井君、ゼロックスに就職した時は面接官に有井毅先輩(57期)がいて、5人受けて岩村田高出身の人もいたのですが、人事部長が「有井さんの後輩だし、上田高校なら大丈夫だからどうか」とおっしゃつて合格しました。家庭も体も会社も上田高とつながっているわけです。(笑い)

宮島 高橋さんはハンドボールでしたね。高橋 さつきから山崎さんの話を聞いていて、どっかで聞いたように



な人生だなあと。(笑い)クラブやって裏街道ばかり歩いたのも、早稲田に行つたのもよく似ています。私も中学の時野球やっていて、ピッチャーで4番だったから、野球部に入ろうと思つて行つたら、部室を間違えてしまったんです。そうしたらもう逃がしてくれない。ハンドボールなんて見たこともなかつたのに。でも入つてすぐ昭和39年、ちょうど東京オリンピックが秋にあるので、秋の国体を変則的に6月にやつた。それに出席したんです。地理の中島先生が熱心だった。先生はハンドボールはあまり出来ないんですが、生徒よりも早くグラウンドに出てネット張りなどしておられた。だから強くて3年間で32勝2敗。その2敗も、インターハイの準々決勝と国体で5位に入つた時の2敗。国体の時は「上田はすごい」と優勝候補だった。3回戦、4回戦と突破した。ところが大雨が降つて会場が室内に変わつた。で、うちは目の悪いところに入つて、よく見えない。特にキーパーが。得点の半分は僕が入れたんですが、目がよかつたからです。(笑い)

宮島 目が悪いのは伝統的なんだね。高橋 それでハンドしかやっていないんで

数学ができない。田中菊先生に1年の時「クラブやめろ。何しに来たんだ」なんて言われましたが、だんだん学年が上がつて行くにしたがつて、「このまま続けたら? お前はもう勉強だめだから。」(笑い)授業中も私を指したら、「おお、指した私が悪かつた」なんて言つて。もう、廊下歩いてるだけで怒られましたから。(笑い)でも、ある時私が掃除をやつていたら、「お前は掃除はいいから」とおっしゃつて、「俺が持つていってやる」とバケツをグラ

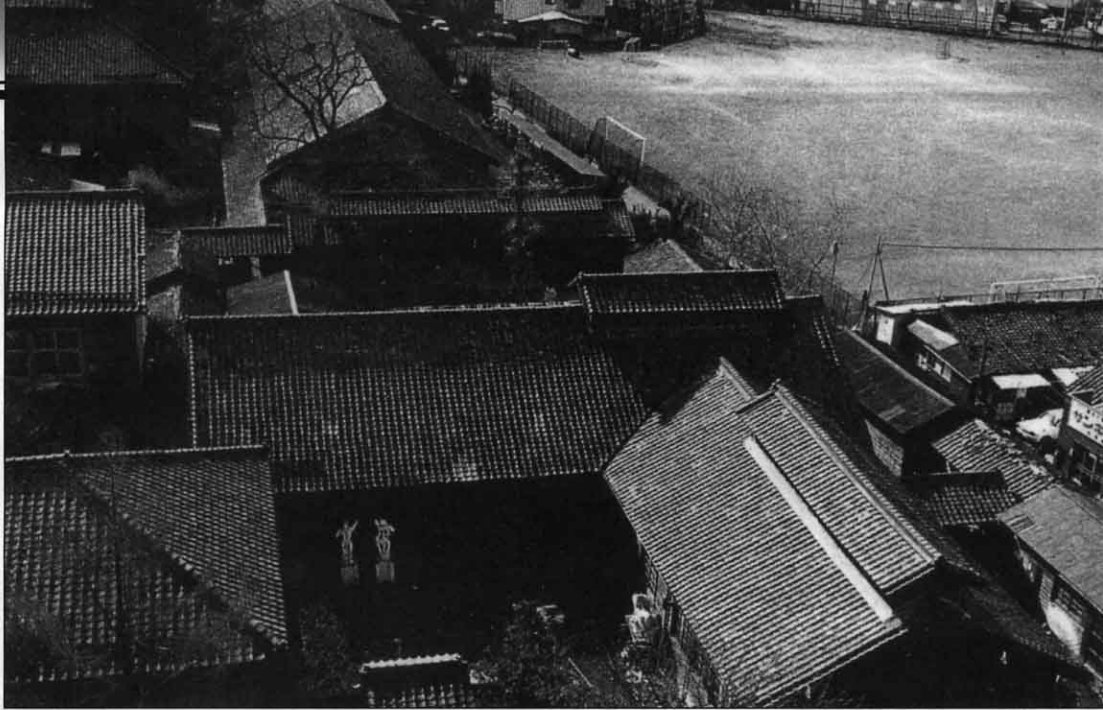
ンドまで持つていって、「お前、これいいから捨ててこい」と。「それで掃除したことになるから」と。インターハイが上田であつた時も隠れて見に来ていましたね。仲間が「オイいるじゃないか」と。私は「やばいなあ」と思いました。(笑い)

宮坂 人間味のある先生だね。高橋 大学からは推薦がいつばい来ました。日本一強かつた立教からも来ました。でも私推薦が来ていない早稲田に行きたいと。そうしたら担任が、「何か間違えていない?」(笑い)結局一浪して行きまして、キャプテン、コーチ、監督とやりました。

今考えると、あの狭いグラウンドで、硬式野球とサッカーとハンドがごちゃごちゃ一緒にやっていたわけですね。ポンポン球飛んできて、「おーい」とか叫んだけど、怖かつたなあ。(笑い)ということで、勉強の方、表街道の方は上原君に聞いてください。(笑い)



上原 (65) 僕は、小学校5年の時武石村から上田に来たんですが、その頃松尾の甲子園の実況聞いたのを覚えてます。高校でスポーツを自分でやることはなかつたけど、スポーツやる連中の男っぽいところはいいなあと思つていました。クラスにサ



←この狭いグラウンドと六角便所が懐かしい。

「上田高校百年史」より

サッカー班が、4、5人いて彼らを通じて高橋君とも友達になったし、今でも親しくしています。先生の思い出は久保田三郎先生。東大出た英語の先生。60分のうち3分の1ぐらいは自分の経験、病氣して苦労した方で、人生観みたいなことを高校生の方々に話してくれた。英語の授業は覚えていない。そういうことしか覚えていないけど、今で

も集まると、非常に良い先生だったと話に出ます。勉強は、僕は好き嫌いがハッキリしていて、数学が嫌いだった。当時国立受けないと普通じゃない、という風潮があったが、国立はまんべんなく出来ないといところねらえないので、早稲田の政経一本に絞って入りました。早稲田は昔から大好きだったので。

### 学区制度は残念

宮島 土屋さんもスポーツをやっていたのですか。体が大きいけど。



土屋 (68) いや、私は望月から通ってしま

して、バスで1時間。しかも、望月のバス停に来るまで、さらに30分も自転車です。山を越して来るという所でしたので、スポーツはできませんでした。冬なんか凍ったトンネルを自転車です。雪の日に学校に行くと、「望月からよく来たなあ」と。それでグリークラブに入りました。(笑い)音楽が選択であって歌っていたら、永井先生が、「君の中低音はいいねえ」と。でも続けずにやめてしまいました。高校出てから考えると、クラブに所属してないと、高校という所は行きにくいんですね。帰属点がないから。一つ事を続けてやっていたらよかったなあと思います。

松井 女の子はいなかったの？

土屋 染谷と一緒にやるということがありました。

寺島 市の上田文化祭に出なかった？ 演劇やコーラスは出ていたのでは？

土屋 はい出ました。田沢温泉で合宿して、ア、ア、ア、ア、ア。あれでやんなっちゃった。(笑い)最上川舟歌とか大会に出たのは覚えています。勉強は金子先生の力

エル解剖。生物の部屋でダニが発生して、みんなかゆいかゆい、どえらい目にあった記憶があります。あとは世界史の小山先生。クリスチャンでいろんな話をしてくれた。授業の他にもクラスに来て話してもらった。

僕らの時望月から12人も来ていたのですが、6、7年後妹の時は学区制が変わって来られなくなっていました。高校選択の幅は広い方が良いと思いますね。

山崎 今の人は寂しいんじゃないかな。僕らの頃はいろんな仲間が来ていた。1年先輩の北住さんなんか軽井沢の千が滝から来ていて陸上やって、睡眠は毎日4時間しかとらない。それで学芸大に行った。若い頃から色々な人と出会ったり、色々苦労したりしてたくましくなる意味でも学区制はない方がよい。自己責任の中で将来きちんとした社会人としてやっていくためにも。

宮島 では、そのへんの所を将来への要望として、今回の座談会を締めくくりましょうか。

寺島 世界史の上原専祿の教科書がよかったということも入れておいてほしい。今は、なくなっちゃったけど。

高橋 校舎が新しくなったが、古い物も残しておく、古い人と新しい人共通の話題ができてよいと思う。

宮島 今回は上田高校初期の皆さまに集まっていたいただきましたが、この頃はまだ松尾的な色彩が濃く残っていたことがわかりましたね。どうもありがとうございます。

(文章 井上剛61・本誌編集長)

#### 【お詫びと訂正】

会報63号で誤りがありました。謹んでお詫びし、訂正します。

・2P「総会」の担当期「64」↓「68」

・5P小山莊司さんの卒業期「54」↓「56」

・10P会員短信欄のイラスト筆者名

「清水憲一郎」↓「清水憲之助」

・12P中村礼三さんの卒業期「51」↓「32」



# TOY'S FACTORY

Imaginations are free and fun,  
and excitements more wonderful and much greater.

“発想は自由に楽しく、そして感動は素敵に、より大きく”

●Mr. Children

●SOPHIA

●ゆず

●hiro

●今井絵里子

株式会社トイズファクトリー

代表取締役 井出孝光 (第61期)



◆平成12年4月1日～10月15日の間の納入者。氏名の後の数字は、複数年の会費を平成何年まで納入されているかを示しています。◆お問い合わせは、事務局・幹事長宮島まで(☎045-864-1664) ◆【事務局からお願い】関東同窓会の財政が厳しくなっています。母校の百周年事業への寄付など、会員の皆さんの負担が重くなっているため例年に比べ納入が少なく、納入者はまだ10%に満たない状況です。会では、年2回の会報発行、数回の幹事会の開催、母校記念行事への協力などを行っています。会報は6千人近い会員その他、母校の教職員、生徒にも送っています。1回の発行に印刷費、送料等で130万円ほどかかります。幹事会などでは幹事の皆さんに自己負担もお願いしています。ぜひ納入にご協力をお願いします。

◆年会費 & 運営基金 納入者氏名

33 石井正文13 36 蒔沢嘉雄12 37 大塚次郎12 40 今井甲子雄20 41 古松 彰15 42 丸山仁志12 横山誠之助14 43 梅田 實14 44-5 小林義徳18 北沢 守17 入山和太次13 古平照男16 久保田昭寿14 田中悦次12 手塚敬一14 小山厚三郎13 柳沢 廣12 44-4 児玉志郎14 滝沢源平12 山本太一12 星野賢造13 井出正人19 山本 勝14 堀内茂雄12 45 森 茂23 坂下平四郎12 三井 園12 46期 久保宗一13 47 丸山栄一26 竹下隆三13 中村義夫13 桜木浩吉13 馬場善一12 山岸五郎16 西村 勉14 上野平八郎12 飯田久夫15 牧内 操17 小山邦明14 宮原俊雄29 48期 赤羽忠雄14 酒井寛文16 松本守弘13	清水雄司14 篠原泰司17 渡辺茂雄12 竹内元幸12 寺沢 明14 土屋 亮21 竹内一夫14 田原 敬13 下村正雄14 今井正明13 浦田光雄16 唐沢俊雄13 小川富士雄19 春原 寛18 高柳直樹15 竹内恵三14 中村哲治13 山崎延秋12 堀内 暁13 宮内栄二13 49 城下幸雄13 岡田暉夫16 竹重信幸13 小林喜六14 銭澤末治14 北沢昌永20 宮坂 博21 鶴見慎一郎14 松本初男28 榎本秀雄26 風岡 充13 龍岡 桜12 久保利夫17 青木喜久弥12 藤原 実12 町田健一13 翠川 輝14 滝沢茂夫12 佐藤芳徳17 田村和男12 花岡 潔12 土屋 正12 大石和夫12	山岸光臣14 永島啓二12 荻原 賢16 小口芳彦12 堀内寅次12 50 飯島圭一16 上原健一14 宮本嘉興15 武重秀雄12 金井忠雄19 五十嵐明迪16 小山洋之介34 大塚文芳12 平林 浩13 工藤俊夫16 奥水朝治13 齋 滋13 西野 明13 新堀英行12 51 飯塚 寿16 池田義雄21 井出英三郎13 岩下裕至14 堀内久根孝一14 小胎治雄12 金井高男13 鎌野秀嗣12 倉沢直哉25 児島和人15 清水 順19 武井 厚12 杉浦醇一17 須田武久12 高木快雄13 高村俊平12 中島 均13 半田義昭16 半田喜章16 樋川光彦13 堀内 福17 堀内忠久15 堀内正智12 間篠 健12	池田松子12 上原佳和12 掛川正司16 片山浩之19 川崎 慎19 久保治良12 甲田廣行20 柴田正人14 須藤尚彦13 滝沢 格14 塚田進一15 土屋義子13 濱野志め13 牧内 勝12 53 阿久津義雄15 岩田 久14 大久保正寿12 大塚教夫14 滝沢正毅12 掛川多美雄12 掛川康夫12 懸川文夫13 金子節子12 川村作子12 小泉勝夫15 大崎和彦15 白井信行13 杉浦醇一17 須田武久12 高木快雄13 高村俊平12 中島 均13 半田義昭16 半田喜章16 樋川光彦13 堀内 福17 堀内忠久15 堀内正智12 間篠 健12	松井利通12 宮川澄男14 村松 厚13 柳沢浩二12 山岸一夫15 山田武彦12 山辺一磨16 山本一夫12 山本農夫彦12 54 有賀俊雄12 市河富弘18 香掛文哉12 倉島 彰13 神津勝重15 小堺一雄13 真道 茂12 田村 朗16 千村一平16 馬場武彦13 柳沢 明13 55 秋葉光廣14 飯島慶三郎15 伊藤典久17 荻原光夫16 木村和幸18 草間 孝12 倉見英一13 黒岩 了15 小宮山忠彦15 小山 賢12 清水 勇15 杉原積雄12 関 五郎12 滝沢 傳15 滝沢 譲14 滝沢哲三13 田玉尚武12 塚田忠夫16 遠山武彦12 樋口宣明12 平野 誠15 間島 巖20 宮下衛之12	宮島光男12 山崎 武12 和田 守23 56 上原清治15 内海章緒19 大久保治夫16 岡田健治12 風岡英信22 神津 進18 小山莊司13 白井利彦18 関 健二15 竹内 仁14 長坂光登14 中村甲治15 成田邦夫15 新沼悖雄13 西島幹夫13 平尾充雄17 平野武明13 松井広通15 宮坂 卓14 安田 明21 柳沢義孝13 吉池鴻允12 57 飯島辰夫12 榎本金一14 加賀美 欣二郎15 金沢昭義12 川上知行12 小島 涉13 小林克二12 清水幸雄12 高沢博行16 田中誠一12 古屋明子12 松井石規12 村田正男12 森田英明12 山本哲之13 61 新井製梁光15	山崎紀典15 渡辺静雄14 58 赤池三男12 生田瑞穂15 井澤 敬31 伊藤文明16 大日向寛敏13 金井 久12 金子親碩14 鎌原昭治17 北村尚巳12 倉島今朝徳23 栗原 裕12 神津 進12 柴田哲男12 多田雅文14 龍野洋和12 塚田恒雄12 中島秀忠14 仁平光義15 芳賀林道13 波田野浩15 林 嘉市23 宮川 昇16 矢島瑞夫15 59 荒井長利14 有賀勝雄12 稲葉 茂13 小林義典18 長谷川久二30 山本政道12 60 川上知行12 黒沢博身17 小山比呂志12 清水幸雄12 高沢博行16 田中誠一12 古屋明子12 松井石規12 村田正男12 森田英明12 山本哲之13 61 新井製梁光15	倉島建美12 小山 満14 宮島英紀25 山浦直次郎13 由井 崇16 62 市村光 12 片山登喜男12 関 祥行18 田島善光13 中山君平12 羽田啓吾12 松井由美16 63 青木泰信12 飯島俊文12 上條和祥12 川村恭司15 北沢昌規12 滝沢夫12 多田圭吾12 中沢秀夫12 西沢信幸13 林 壮治19 平林善夫12 藤川 昇16 藤沢章彦13 保坂証司12 美智子12 山浦善樹15 山浦成子12 山口芳輝12 山本寿美子14 64 石井則男12 荻原俊男12 小宮山孝12 中西毅慶15 山崎一郎12 65 上原 昇13 田村一平15 戸叶秀晴12 森 則雄12 66 磯川周治12 岩片正行12	笹沢和平12 清水通男19 田口 博16 67 龍野秀雄12 長谷川榮一12 68 石垣洋子16 稲寺 隆12 土屋耕太郎18 前田富生12 三井一成12 三吉尚子12 69 尾立孝司19 宮川 達12 71 小林清隆12 72 今井一郎16 勝山節子12 気田夏子15 小山 治12 関 博明12 長坂武見12 西田光男15 船渡和男16 73 小平康人12 橋爪宏達12 74 坂口洋三17 清水直人12 75 羽田 平16 76 小林忠利12 清水順三16 永島精二12 78 増田則夫12 81 宮下 博12 82 常盤順子12 85 滝沢豊久13 86 浅井美那子12 98 大房信幸12 岡村杏里12 古越敦司12
---	--	--	--	---	--	---	--	--

◆運営基金拠出者◆ 43梅田 實 45坂下平四郎 47宮原俊雄 48土屋 亮 50小山洋之介 52片山浩之 53白井信行  
53堀内忠久(2口) 53金子節子(3口) 53山本一夫 55木村和幸 55塚田忠夫 57滝沢紀夫 58井澤 敬  
59長谷川久二 60川上知行 61堀内寿美 62片山登喜男 69宮川 達 72今井一郎 98依田啓伸  
(一口一万円。合計240,000円。基金累計は8,440,000円)

■ご冥福をお祈り致します。

32期 福島 軍次氏 12.5.8	44期 荻原 理宏氏 11.3	53期 坂口久吾 氏 11.1.20
32期 岩田 光弘氏 12.5.31	46期 池内 省三氏 12.3.11	53期 黒岩恭而 氏 11.11.7
33期 鈴木 真二氏 12.1.29	48期 小山 巖 氏 11.10.21	53期 甲田育也 氏 12.11.5
35期 塩入 重雄氏 10.8.7	49期 母袋 洋三氏 12.5.24	54期 丸山 恒 氏 12.8.3
36期 松島 久 氏 11.7.14	49期 佐藤 芳徳氏 12.6.16	55期 木原 仁志氏 12.8.31
40期 柳沢千代茂氏 11.11.18	49期 坂田 信雄氏 12.10.4	56期 藤井 忠士氏 12.7.9
42期 田村 滋雄氏 12.3.31	50期 竹重 良信氏 12.5.4	60期 小島 建二氏 12.2.14
	52期 高山 実 氏 12.2.12	75期 長岡 正樹氏 12.4.15

**GO! Go! 21世紀**

**55期同窓会 有志**

東京ドームホテルで再会しよう

幹事代表 遠山武彦・宮島光男

《 アイ・ラブ・ウエダ 》

**東京上田会**

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-28-13-705  
☎ 03-3291-6996 FAX 03-3291-1156  
URL <http://www4.ocn.ne.jp/~uedakai/>  
E-mail [uedakai@titan.ocn.ne.jp](mailto:uedakai@titan.ocn.ne.jp)



## ◎ 会員短信

( ) 内の数字は、卒業期です。

キコ、14都市を巡り歴史の深さ、芸術文化、遺産に圧倒されて帰ってきました。

▼ 藤原実 (49) 東京都腎臓病患者連絡協議会副会長として、医療保険や医療費助成等で国会などに請願運動をしている。

▼ 大石和夫 (49) 東京スポーツ用品卸商共同組合専務理事として、年に2回有明ビッグサイトで開かれる業界見本市の仕事をボランティアでしています。

▼ 竹重信幸 (49) 平成9年3月に慶応義塾を定年退職し、その後は老母の様子を見に毎月上田へ帰省しています。亡弟・竹重良信 (50期・7年5月4日逝去) 上田高校在職中は英語科の諸先生はじめ生徒の皆様、また野球部の皆様にお世話になり、代わってお礼申し上げます。

▼ 金井忠雄 (50) 上田高校がますます活発に発展していく様子、何よりです。私は全国普通科高等学校長会事務局長の仕事を辞めた後、毎日自宅での生活です。

▼ 上原健一 (50) 社会保険庁統括指導医療官 (厚生技官) として、医師の指導・監督をしています。

▼ 小須田紀元 (50) 50期としては高齢の71歳。定時制の卒業です。年金生活で暇はありますが...

▼ 伊藤澄夫 (50) 現在も会社に勤務しています。

▼ 尾台久 (50) 毎月約半分の14-15日勤務です。

▼ 保坂利勝 (51) 時期的に仕事が集中していて総会に出られません。閑中忙より忙中閑の方が何歳になっても幸せかな、とも思います。

▼ 八木浩輔 (51) 明年、英国のCambridge University Pressから教科書Quark-Gloun Plasmaを出版します。母校の「一流」大学への進学状況は本年度も低調。何とか改善できないものか。何か本性的に教育方法 (長野県全体がダウン) に欠陥があるのではないか。

▼ 岩下裕至 (51) 交通事故で頭をうち、一時Costa Ricaに移住していたが、本年2月帰国し入院したりして現在に至っています。

▼ 平井秀男 (51) 役所勤務をリタイアした後、民間会社に勤めていますが、毎日が日曜日になる日も近いかと思います。年金生活は上田の方で過ごそうか、思案しています。

▼ 浅野井哲 (51) 7月に妻と北イタリア湖水地方からツエルマット周辺の山歩きの旅を計画しています。

▼ 飯塚寿 (51) 昨年で松竹を退社、軽井沢に別宅があり二重生活です。

▼ 早川正範 (51) 本年6月末で会社をリタイアしました。

▼ 柳沢純 (51) 昨年、現役を引退しました。

▼ 片山浩之 (52) 100周年記念事業は結構なこと、盛大に執り行ってください。

営委員長です。

▼ 小林孝雄 (42) 100周年の諸行事に苦労されている諸兄に感謝します。会報特別企画「母校・証言の100年」を興味深く読み、戦後の母校の様子をはじめて知りました。

▼ 梅田實 (43) 会報63号で戦後の上中の様子が良くわかり、旧知の恩師の名前も出てきて懐かしかった。会員短信で50、60期代の短信が多く心強い。若い世代、70、80期代の短信も多く読みたいもの。

▼ 佐々木三夫 (43) 43期の集まりを検討中です。皆様のご健勝を。

▼ 黒岩喜四郎 (44-4) 昨春以来体調が悪く、遠出を避けています。会の発展を心から応援します。

▼ 水澤博 (46) 人生劇場3幕目、まる5年経過し楽しくやっています。同期生と時々ゴルフをしたり、上田に帰省したり...

▼ 工藤敦男 (47) ぎっくり腰とメニエール氏症候群に悩んでいます。古希を迎え、体調回復を待って仕事を再開。

▼ 桜井理治夫 (47) 上田の近況を聞けるのはいいが、語り合える仲間が少なくなった。

▼ 館野良行 (47) 油絵団体の雑用係長として過ごしています。

▼ 山崎繁廣 (47) 古城の門を出て52年、古希を迎える。「日新日々新」をモットーに、孫たちに囲まれ良いじいさまをエンジョイしています。

▼ 三浦幸雄 (48) 植物園管理もベテランの域に達し、年間管理実務9年。元気にやっています。

▼ 小川光敏 (48) 老いてますます盛んと言いたいところ、年は歳ですがボランティア生活で若い頃の暇が欲しいこの頃です。

▼ 城下栄三郎 (48) 旅行、写真のほか、地域のボランティアに参加しています。

▼ 高柳直樹 (48) 古希を迎えます。多少がたが来ていますがまだまだ元気です。

▼ 西沢昇 (48) もっぱら私事に関わり、孫と遊び、母の看護をしています。

▼ 清水雄司 (48) 畑仕事とハイキング、登山。健康第一の日々を送っています。

▼ 中沢利雄 (48) 健康に恵まれ地域ボランティアに努めています。健康な生活には①充分な睡眠②正しい食事と良い水③適度な運動④過労とストレスからの解放一が重要です。

▼ 堀内惇 (48) 同窓生の著作を母校に贈ることに加え、蔵書で適当なものも集めて在校生に読書を勧めてはいかが?

▼ 桐山博光 (48) 臨床試験のモルモットにされ、アルコール類はドクターストップの状態です。

▼ 半田幸一 (48) 腰痛、血圧に悩まされながらも何とか元気でやっています。

▼ 酒井寛文 (48) 5月上旬、永遠の都ローマから12日間イタリアの古都巡り。1300

▼ 田中五郎 (28) 来年には満90歳を迎える28期生。100周年の春、現役生の国公立合格者が100人を越えた由、老年者も心嬉しい限りです。

▼ 小山陽太郎 (28) 老年ですが比較的元気で過ごしています。

▼ 中台秀松 (32) いまだに現役で働いています。1ヶ月にたった二日しか休みがなくとも元気いっぱいです。上野方面においでの際はぜひお立ち寄り (アメ横・ナカダイ商店)。

▼ 田中柳一 (32) 腰痛治療中。行動が意のままにならず。

▼ 若林彦六 (34) 元気で全国の水石、美石を集めています。この秋、中国・杭州西湖マラソン3キロに挑戦、3回目です。

▼ 滝沢正 (35) 会報、実に懐かしい。母校の繁栄を永遠に祈る。

▼ 瀧澤克己 (36) 81歳、元気です。6月にすべての職を辞しましたが、研究会などを行っています。ゴルフは半世紀前のシングルの腕は落ちましたが、東京よみうりカントリーのグリーン委員長。昨年から軽井沢の生活を年の3分の1ぐらい楽しんでます。

▼ 岡清助 (37) 5月に上野で同期会。出席者は新井、清水、宮沢、久保田、内田に小生の6人。急減にびっくり、80歳の坂か。

▼ 矢島勇雄 (38) 年齢相応に元気です。

▼ 土屋武弘 (38) 会報ありがとう。難聴以外はいたって健康です。

▼ 小平一彦 (40) 卒業以来、半世紀のご無沙汰。信州のことは見聞きする度に懐かしさがこみ上げる。

▼ 吉田節生 (40) 11月に原研が本社移転、棟第5企画も柏に移る。東海村には非常勤。

▼ 吉池一郎 (40) 喜寿の年になり上中の思い出も遙かかなたになりますが川辺村に寄留しつつ自転車を通い自然を満喫できたことが忘れられません。もう世にいない同期生の顔も。

▼ 金沢光男 (41) 元気で医者として、また福祉関係の仕事を見ているのですが、面倒になるばかりで医福崩壊に向かっているのかなと考えています。

▼ 川尻悦三 (41) 顔見知りの先輩が少なくなり、最近と同級会の出席のみにしています。

▼ 栗田裕夫 (42) 紙上で同僚、先輩が経済界、学会などで頑張っておられ頼もしく感じています。小生も老骨に鞭打って中小企業の発展のためあせらずに努めています。

▼ 横山十四男 (42) 現在、NPO法人多摩川センター代表理事、多摩川流域懇談会連



が出てきたので、今後は総会などに極力参加したいと思っています。

- ▼ 栗原裕 (58) 目下は「中丸明」の筆名にて執筆活動をしています。1年の半分はスペインで暮らしています。(栗原氏からは総会当日、OB文庫にスペイン関係の著書を5冊寄贈された=別掲)。
- ▼ 関根克郎 (59) 中学、高校、大学の同期会が全部7月1日で重なりました。最初に案内がきた大学の同級会に出席します。
- ▼ 稲葉茂 (59) 59期の岩崎忠夫君が今回の選挙(6月25日総選挙)に長野3区から立候補、59期を挙げてバックアップ活動をしています。(岩崎氏は北信越で当選)
- ▼ 重原整治 (59) 総会の連絡ありがとうございます。当方、長野県との県境(草津町)ですので、母校のある上田まで車で1時間で行けます。
- ▼ 小松有也 (60) 会報、小諸出身なので神津投手の話に興味深く読みました。
- ▼ 田中一穂 (60) 新幹線のおかげで上田がぐっと近くなり、毎日通勤の横須賀線に乗っている時間と同じです。時々帰省しています。
- ▼ 川上知行 (60) 故郷上田では日置勇二君がわれわれ県外就職者のハブになってくれるのでありがたい。先日、ドイツ出張の折、三菱電機の現地責任者になっている下里剛君と会い、懐かしい上田時代の話で楽しいひとときを過ごした。
- ▼ 倉島建美 (61) 仕事(設計)のチャンスがあまりなく、近頃は半分は自宅分室でSOHO的活動をしています。それまで見えなかったことが見えてくることも多々あり、それなりに楽しいのですが...
- ▼ 馬場通 (61) ある時は仕事(ロシア語事務所)のため、ある時は雑用のため、余裕ができません。今年はなかなか仕事にあたらなくて苦戦しています。
- ▼ 角田玲子 (63) 教員生活30年、周囲では退職する人もちらほらと出てきています。体力的に厳しいかと思うこともありますが、週1回の華道を息抜きにしてすべてをプラス思考で生活しています。
- ▼ 島田彰男 (64) 横浜市南区役所の介護保険担当課長として、4月にスタートした介護保険制度の実務事務にあたっています。
- ▼ 小山雅堂 (65) いろいろ言われている日本ですが、私はやはりこの国が一番好きです。しかし、勢いに任せて現地法人を幾つも作ったため、年に10数回の海外出張という羽目に陥っています。憂さを晴らすため魔都上海では毎晩飲んで放歌しマカオでは連日カジノで咆哮しています。上田健児ここにありというところです。
- ▼ 小林修一 (67) 感謝しつつ、会報を読ませてもらっています。

一声かければすぐに10組も集まるからすごい。せめて歩いて楽しい日を送りたい。

- ▼ 荻原統夫(54)4月からフリーになり、リフレッシュ中です。
- ▼ 宮沢壮介(54)今年から近くの大学で勉強をやり直しています。
- ▼ 深町勝男(54)楽しみのサッカーにはまっています。
- ▼ 竹内節(54)憧れていた晴耕雨読の生活をしています。言いたいことを言って楽しんでます。
- ▼ 河西秀夫(54)昨年リタイアしてから頭の体操、身体の体操を毎日しており、結構充実しています。
- ▼ 小川廣(54)5月末でサラリーマン生活に区切りをつけ、フリーになりました。
- ▼ 黒岩了(55)会社勤務を辞め、囲碁クラブの経営を始めました。毎日碁を打っていますがこれが仕事です。
- ▼ 大野忠雄(55)富士フィルムを定年退職後、特許事務所の特許業務を担当しています。週二日の小田原から東京まで新幹線通勤、ボケ防止に最適です。
- ▼ 長坂光登(56)62歳退職、第2の職場で元気にやっています。
- ▼ 松瀬勝雄(56)3月に水戸家裁下妻支部で定年退職。今回の会報、英語クラブのバイブルクラス、甲子園に応援に行ったことなど、身近に感じました。ありがとう。
- ▼ 関健二(56)公立学校を定年退職し、4月から埼玉県富士見市の相談研究室で教育相談をしています。
- ▼ 若林克寿(56)3月に37年間勤めた教員生活を東京学芸大付属大泉中学副校長を最後に終わりました。大過無くすごせたのは職場の同僚はもちろん、高校時代の同級生と時々会って飲みながら気晴らしできたのもストレス解消になりました。
- ▼ 笹沢政道(56)7月末で退職予定。毎日が日曜日の生活になるかどうか未定。
- ▼ 岡川章夫(57)12月で60歳定年になります。その後の進路は決めていませんが同様の業界で仕事ができればと考えています。
- ▼ 沓掛良彦(57)この4月から新設ポストに就任、初代外国語学部長(東京外国語大学)になりました。松本深志出身の学長と対立したり協力したりで、苦労しています。上田高校出身の入学者が少ないのは寂しいことです。
- ▼ 関行裕(57)気象庁配下の気象業務センターに出向中です。身体のほうは元気至極です。
- ▼ 飯島辰夫(57)5月に退職、失業保険受給中。保険代理店を家内がしており、いずれ引き継ぐつもり。
- ▼ 山辺光一(58)第58期は毎月第2木曜日に内幸町富国生命地下の「袖庵」で「二木会」をやっています。
- ▼ 小島佳雄(58)還暦も近くなり少し余裕



- ▼ 青柳位紗男(52)「今年はぜひ総会に出席を」と思っていたのですが、主治医のアドバイスで欠席になりました。
- ▼ 竹鼻幸男(52)会費は永久会員として金額を決め一括支払いにした方が良いと思う。
- ▼ 小林乾泰(53)東芝フィルハーモニー合唱団をやっており、7月2日が東京文化会館での演奏会。次回の総会には参加したい。
- ▼ 柳沢博(53)鐘紡を退職後、現在は高齢者福祉の分野の仕事を中心に頑張っています。
- ▼ 年会費納入に際し、年度分が不明の場合が多い。本人に知らせる方法がないか。(事務局に問い合わせただければ、すぐにお知らせします)
- ▼ 北村禮子(53)現在、ほとんど長野で老人介護の日々です。
- ▼ 金子節子(53)7月下旬、故郷上田に転居します。在京中はお世話になりました。(金子さんから金一封を頂きましたので、基金に繰り入れさせて頂きました)。
- ▼ 山本一夫(53)3月に帝国石油の関連会社ベネズエラ石油の役員を退任、現在は無職。
- ▼ 高村俊平(53)昨年12月東芝の関係会社も定年。在籍時の経験を活かし、パソコン財務会計インストラクタを自営で始めました。東芝の関係会社を中心に指導しています。
- ▼ 掛川一彦(53)当番期なので大結集し盛大なクラス会も。この3月末に41年間の広告人生活に終止符を打ち、目下定年生活を元氣いっぱいエンジョイしています。
- ▼ 若林清和(53)伊豆へ引っ越したので、これからはなかなか総会に出席できないかと思えます。
- ▼ 下崎和彦(53)2002年3月に定年。老骨に鞭打ち海に山にと頑張ろうと思っています。
- ▼ 藤村延魚(54)まだまだ現役で海外を飛び回っています。
- ▼ 倉島彰(54)会報63号の「母校・証言の100年」末尾に記されている中沢睦治郎校長の「人類愛に立脚し自己の理想の実現のため能動的指導者たるべく実践に努めよ(小生流意識)」との言葉は60台の小生にも指針となるすばらしい一語です。
- ▼ 田村朗(54)4月1日付で勤務先が合併し、社名が「和興エンジニアリング(株)」となりました。引き続き常勤監査役として横浜から田町まで通っています。
- ▼ 小市則夫(54)稲垣、清水、大森...と各上中の関東支部のリーダーが代わり、名物幹事長の矢島五郎氏の関東同窓会があとを受けた。その先輩も鬼籍に入り、我が54期も62歳を過ぎた。東京へ出て(昭和)32年から54期の幹事を引き受けやってきたが、今はできるだけ引っこめようと思う。失うものがない人生とは何だろうと考えたりしている昨今である。ただ、54期のゴルフコンペは



←←←←←  
(11ページより続き)

の方向性を探っていこうと思っています。

▼ 藤沢賢治 (83) 二月に大阪から東京に戻り、東京三菱銀行で在日外資系企業取引の企画・推進を担当しています。欧米企業の対日進出ラッシュにより、毎日忙しくやりがいのある仕事です。“上田魂”を忘れずに頑張っています。

▼ 榎本かおる (83) 先輩方や後輩たちの頑張っている様子を拝見し、上田の同窓生として誇らしく思っています。同期生の活躍もそのうちに紙面に登場してくるかな、と楽しみにしています。子供たちに手がかからなくなったので、時々在宅で翻訳の仕事をしています。

▼ 池野雅之 (83) 今年1月にNHKに転職し横浜に移ってきました。

▼ 中村幸子 (85) 先の会報で私が音楽療法に関する情報を集めているということを紹介してもらったところ、埼玉の田中様から情報を送っていただきました。大変嬉しく、感謝の気持ちでいっぱいです。

▼ 柳沢千恵子 (76) 同窓会便りなど送っていただき、ありがとうございます。

▼ 山本直人 (77) 東京転勤となって早3年が過ぎようとしています。こちらでの生活や仕事にもすっかり慣れ、定年までこちらで頑張りたいと思っています。

▼ 井上広恵 (79) 専業主婦ですが日々がバタバタと忙しく過ぎていきます。

▼ 長岡秀樹 (79) 4月15日、兄正樹 (75) 期、戸田先生のクラスが永眠しました。3年間にわたる闘病生活の末でした。千葉、船橋で葬儀を行った関係で友人の方々にはご連絡しませんでした。会報でお知らせくださるようよろしくお願いいたします。

▼ 宮崎紀一 (80) 大学教員 (青山学院大) として、教育・研究活動に従事しています。全日本大学サッカー選抜チームのコーチを担当しています。

▼ 小野義孝 (81) 4月から群馬伊勢崎高校教諭に異動しました。中学校勤務の経験しかないので毎日が疲れます。中高一貫教育

▼ 桜井啓一 (68) 現在、宇宙開発事業団に出向中。13年12月には会計検査院に復帰の予定です。

▼ 太田康夫 (68) 二年ほど前から中国のシンセンに長期出張しています。

▼ 山村由紀子 (69) 整理してみますと、上田高校同窓会、関東同窓会、(女子同窓会)、69期同期会、むくの会(69期女子のみの会)、機智会(69期4組同級会)、機智会関東支部(私が万年幹事) - 多忙です。

▼ 高橋典子 (71) 4月に司法書士登録をして自分の名前で申請できるようになりました。とはいえ、私に直接仕事を依頼する方はいないので、今までと同じ勤務型司法書士ですが、未熟、力不足ですが何かの時はお知らせを。

「後で分かったのですが、これが基本でした。音楽をやるには、いい環境、いい指導者、本人の精神力が必要ですが、いい先輩がいてくれた」  
高2の後期から2週ごと土、日に東京へ練習に通った。  
「兎束(武雄)先生が、この道を目指すならこういう道があるよ、と芸大を教えてくださいました。そこで勉強して母のように教師になれたら、という気持ちでしたよ」  
いま、百瀬さんは日本打楽器協会役員、東邦音大特任教授などを務める。「でも、暫くしたら塩田の方にでもUターンして、後を指導するのでもいいかなと思ってるんです」。(聞き手、宮島)

東京都心・西麻布の閑静な住宅街、3階建ての地下室。ここが百瀬さんの練習室で、大小4、5台の赤いティンパニ、小太鼓などが並ぶ。「地方公演では滅多にない大編成で、しかもワグネルという重い曲が入るプログラム。オフイシャルでは1日二回の公演もしないが、今回は生徒たちのために特別でした」と笑う。  
N響のスケジューリングは通常3年先まで決まっている。今回はそこへ無理に割り込んだ。  
「上田のコンサート委に同期の龍野彰宏さんがいて、渋谷のハチ公前で卒業以来始めて顔を合わせた。お互いすぐ分かった。信州人の顔をしてるなあ、と笑いましたよ」  
百瀬さんは北佐久郡横鳥村(現立科町)出身。小学生時代から音楽に関心はあったが、中学時代にほのかな想いを抱いた美しい子がピアノを弾いているのを聴き「目だつて関心を惹きたい」と打楽器を始めた。高校入学のとき「古城の門」のわきで入部勧誘のプラスチックバンドが演奏していたが「マーチをつなぐところで太鼓の轟きを聞いてしびれてしまいました。一瞬を支配する音ですね」  
入部したのはいいが、夏休みまではただバチで丸太を叩くだけ。右手で1時間、左手で1時間……

現した。



百周年コンサートを実現させた  
N響首席ティンパニ奏者  
百瀬和紀さん (58期)

母校百周年記念行事の白眉と言えるNHK交響楽団メンバーによるコンサートは、10月30日市民会館で開かれ、好評を博した。80人を超える大編成の中で正面後方に立ち、ティンパニを鳴らしたのが、百瀬さんだ。彼と上田のコンサート委員会の地道な努力が市民への心豊かな贈り物として実現した。

## 君が校長先生だったら どんな学校にするだろう。

不登校を経験したり今までの学校になじめない人が多く通う学園です。「誰もが安心して通える学校」「元気の出る学校」を目指して楽しい学園づくりをしています。

入学相談室 ☎03-3370-0718 (代) 受付/平日AM9:30~PM5:00

# 東京国際学園高等部

## 「ひきこもり 不登校からの自立」

マガジンハウス社刊 定価1,500円

## 「学校に行きたくないって 誰にも言えなかった」

ほんの森出版刊 定価1,400円

著者 東京国際学園高等部 学園長 荒井裕司(64期)